

希望するところ

賛助会員 石倉新十郎

世態は動いてやまず、ことに大戦前後の変遷は甚しい。専門学校が大学になる。日本の国情も変つて、学校と社会との相互関係も全国的から地方的に移り、以前や、華やかを見えた影が衰退して、将来を悲観する気分さえ出て来たようである。之を世の常として淋しく諦めるのは老人の平凡である。古きは往いて帰らず、新きは常に生きて来る。上田の天地は千古不易といえようが、其れは不変の基礎に立つているものだけである。無常の中に存在する不変のものは恰も生物体の生活体制のようである。生物体が変転し生活方式が転換すれば其れに即応して始めて永遠の発展が其の中から生れるのではなからうか。

人は同じ所に永く固着すると、世の無常を忘れ変転に即応する事をとなく怠るから淋しい気分になる。即応して日に新たな人は心の老いる事はない。若い人でも保守的気分の人は心が既に老人と同様になる。古い人は自他からのホルモン分泌を促進して若人と同じ新しい心になる事を希望いたします。

千曲会員が旧新離れがちで連結親睦を図ろうと考へるのは御尤である。大学の入学志願者が地方的に偏したのを氣に病んだり、上田本位の學術

雑誌を再刊しようと思へるのも心情御尤であるが、こうした考へは捨て、頂かねばならぬでしょう。旧新老若が互に連結し親和協力する事は最も大切な事と思ひます。大学職員間でも旧新粗隔の傾きは無いでしょうか。

実例を見ると以前蔵前にあつた東京高工が昇格して工業大学と変り今の大岡山に移転したのであるが、旧卒業生同窓会員は保守気分から脱脚しきれないで日本橋に蔵前会館を建設し、今でも先輩達が会合する所であつても若い大学出身者は殆ど無関係になつて居るようである。又一高が大学になつて駒場に移動してしまつては向ヶ岡の寮歌を唱つてみても、今の青年には何の感興も起らないでしょう。

上田の学校は移転しないから千曲会は今でも変らないのが幸といふものでしょう。然し其れだけ昔になつて詩情の美しさは強いと思ひます。だが大学のまた千曲会の永遠の生命はこうした文學的情操の中にあるのではなく、科学の中にあるのではないかと、科学で行くのだと思ひます。この永遠の生命を益々力強く愛護したいのが旧新を問はず学校関係者すべての一致した心持ちではないでしょうか。其れには保守的な心情に固執する事が最もいけない障害だと思ひ

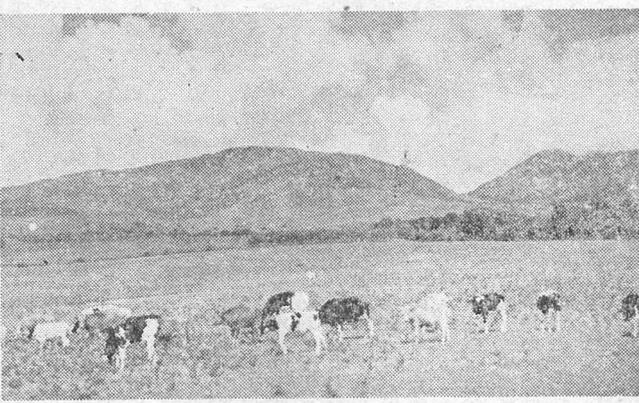
ます。こうした心情はきれいに洗ひ去つて、旧新互に融合親和し同じ気分になる事が先決問題ではないでしょうか。其れには唯命を重ねた所で成果は得られないと思ひます。旧人は先ず新しい人の心になり、老人は若返つて科学的に又社会的にも若い人と共鳴す

るように思われまふ。上田の大学の存在を明徴するには研究する眼界をもつと広く高く持たれて、基本は日本に置いても影響範囲は東亜に出来れば世界的にまで考へて、研究題目を撰択して頂きたいと思ひます。空想や理想の新しく大きいのはやはり若い人の心に

あるのですから、そして科学の研究には老人旧人は無いでしょう。新旧老若歩を揃えて新しい問題に心を向ければ、自然そこに親和が生れ協力も生ずるものではないでしょう。こうした効果は現われ実績が挙げれば呼ばずして上田の盛名が揚がると思ひます。從つて千曲会のあり方も自ら形を

だよりがありましたが、之でみるに昔の専門学校時代と同様甚些細の問題局面の狭い問題に捉われ過ぎて居るようです。若し他の学科も同様だとすると失礼だが大学の職員方の考へが余りに近視眼的であ

るようには思われまふ。上田の大学の存在を明徴するには研究する眼界をもつと広く高く持たれて、基本は日本に置いても影響範囲は東亜に出来れば世界的にまで考へて、研究題目を撰択して頂きたいと思ひます。空想や理想の新しく大きいのはやはり若い人の心に



夏の菅平 (撮影=柴崎高陽氏)

「時の人」
富岡 秀君 T.H.生
昭和四年製糸学科卒業以來終始一貫農林省蚕糸局糸政課に在り蚕糸行政の樞機に参劃して来た同君は此度紐育生糸事務所長として転出する事になつた。戦前生糸事務所は Raw Silk Intelligence Bureau of Japanese Government
であつたが、此度復活は政府の出先機関でなしに日本蚕糸協会が政府からの交付金で紐育に事務所を持つ形をとららしい。Raw Silk Intelligence Bureau in New York の名が用いられるだろうか。こうした機関が復活した事、そのボスに富岡君が選ばれた事二重の慶びに堪えない私の記憶では初代所長が吉田清治氏で帰朝後蚕糸局長となり現に大日本蚕糸会々頭でもある。二代所長石黒武重氏も帰朝後蚕糸局長農林次官、農相を歴任して現に横濱生糸取

(前頁最下段より)
産を現今の貨幣価値に換算して少くとも二千万円以上の財源を獲得してその利子を活用し、母学及び会員相互の発展に資することが我々の夢である。冀わくば同門の諸士互に感奮興起して千曲会並に繊維学部発展の為に緊揮一番せられんことを!!
引所社長である。又三代植田武彦氏は日本蚕糸統制会社の常務取締役として敏腕を振られた事は承知の通りである。こうした前任者を見て富岡君の運は開けて来たように思えて喜ばしい。それもその筈元日銀理事南方開発総裁であつた武井理三郎氏を叔父に持ち又長兄小川栄一氏は今お時めく藤田興業社長であられる所から見ても富岡君は一事務官で終る器でないのは知れた事である。そうした意味で同君の将来を楽しみに期待し見守らう。

免もあれ紐育へ足がかりの出来たのは好い事である。私が参つた昭和十四年頃所長は植田氏その下に現紳戸生糸検査所長松本氏と現糸政課長大戸氏の御二人それに通訳と女事務員とで生糸情報宣伝をやつておられた、私は特に御厄介になつた當時を追憶し懐しく思う。

学内人事

柳沢延房先生 教授に昇任される
内田貞夫先生 助教授に昇任される
一志淑夫先生 助教授に昇任される
田玉龜太郎庶務係長 勤続三十余年の永きにわたり事務関係で尽力されて居りましたが此の度の待命にて辞められることになつた。

大正十一年、国際聯盟事務局
保健部員(在シネネフ)
大正十二年、船期、慶応大学
医学部教授
大正十三年、満鉄衛生課長並
に満鉄衛生研究所長
昭和六年、満鉄退社
昭和十二年、蒙古聯合自治政

金井氏が信大長候補者

として推薦された理由

(一部の有権者に配布されたもの)

金井章次氏が満蒙経営の事に
参画したのは周知の事実であ
る。
かゝる経歴上のハンディキャ
ップがあるに拘らず学長候補
の一人に選ばれたのは主とし
て次の理由による。

その一つは高潔な人格であ
る。同氏の人となりについて
は種々の逸話があるが次の例
によつてその片鱗を窺うこと
が出来よう。終戦後甚しい窮乏
の中にあつて、生計のことに
追われつゝも土地の青年や大
学関係の生徒に一週二回自宅
に於いて人文、社会関係の学
を講じて今日に至つていて
が、その講義に列すること七
八年に及ぶ者も二三にとどま
らない。かように多年に亘つ
て青年、生徒を惹きつけてい
るのはその学殖の深さ、広さ
以外に、その恬淡にして寛潤
な人間的魅力によるものと思
われる。

第二に自然、人文の両面に
亘る豊かな学識である。自然
科学の方面に就いては説明を省
略する。人文科学関係につい

府最高顧問
昭和十七年、同顧問を辭し帰
朝
現在、上田市馬場町在住、上
田協同組合理事長
主な著書 満蒙行政論、
社会不安の考察、平和と思
想

学長候補に推す如きは常軌の
外と言わざるを得ないだろ
う。同氏の言動を通じて見ら
れる思想傾向は強いて名づく
るならば、リベラリズムと言
うべきであらう。然もそれは
戦後節を變えた所謂転向者の
輩と同日に論ずることは出来
ないものがある。

一言するならば、金井氏は夙
に哲学書に親んで来た人であ
るが、その研究領域は社会学、
民族学(人類学)、経済学、社
会思想史等に及んでいて。一
週二回の講話に於いて同氏の
好んで取り上げる題目はカント
・ヘーゲルの哲学、西田哲
学、デュルケムを中心とする
フランス社会学、マルクシズ
ムの諸問題であるが、その何
れについても所謂好事家の余
技という類ではない。談論風
発の中にも、学的論証を必要
とするような事項に対しては
細心周密、例えは文献の裏づ
けなくして臆断を下す如きこ
とは最もその学风から遠い。

第三に細密周到な計画に裏
づけられた旺盛な実行力を筆
づねばならぬが紙幅の関係か
ら省略する。
以上の如き卓越した資質を
具備せるにせよ、仮りに同氏
が、過去の経歴の一部によつ
て或は臆測されるやも知れな
い思想傾向——偏狭な国家主
義——を持つてゐるとすれ
ば、かゝる人物を荷も大学の

千曲会山形支部も今年早々久
しぶりに山形市に於て、先輩

諸兄の多数の参列を得、盛
大裡に総会を開催致しまし
た。現在山形県下に在住され
る各位は二十四名にも及び、
総会出席者は十二名でした。
総会は母校の状況報告並に支
会々員の動静報告其の他会務
報告、議事進行にて母校の發
展を期すべく協力方を誓つて
宴會に移つた。此の席上役員
の改選を行い、支会長には栗
原章氏、副会長に長谷川弘平
氏がそれ、選出され、支会
員諸氏も今後は大いに山形支
会を通じ、先輩諸兄の連絡の
緊密化を満場一致で賛成され
た。又先輩各位には支会發展
の爲、多大の寄附金を送られ
て陰に陽に会盛盛の御協力
戴いて居る事は誠に厚賀の至
りに存じています。

今、我が信州大学に急速な
解決を迫られて居る諸問題山
積している時に当り尋常一様
の力量を以つてしては、この
難局を打開することは至難で
あると思はれる。
金井氏が学長候補に選ばれ
た所以は、かゝる難局に堪え
うる高邁な識見、人格と旺盛
な実行力に期待がかけられる
からに外ならない。

山形支部役員
支部長 栗原 章
副支部長 長谷川弘平
幹 事 井上兵一郎
佐藤 克治
小野 昭夫

徳島支部は十七人ばかりの小
世帯ながら折に於ては電話
一本で会合し友情を温めてい

前支部長の遠藤文平氏(糸一)
は徳島チエーンストアの支
配人としてソビリしたいか
らと無理からにバトンを生
に渡されたが、後輩の面倒は
よく見てくれるので慈父とし
て慕われて居る。
会員はそれ、専門の分野で
活躍しているが、異色の人々
としては、天野武良氏(糸七)
は蚕業試験場退職後、悠々自
適の生活を送つており、華岡
弥治郎氏(糸三)は異服問屋
の旦那さんとして蚕糸とは縁
をきつて久しい。四宮太郎君
(糸九)は鳴門市貝ボタン
の製造をしておりデフレ何処
吹く風といった経営振りを統
括している。稲富信一君(糸七)
は劇場主として、黒字経営で
懐る具合は温かそうだといつ
たところ。

本会報は年四回の発行予定
で演進しておりますからどし
どし御意見なり御消息なり本
会宛お寄せ下さい。申すまで
もなく全国の全卒業生三千余
名に漏れなく毎回送送してお
る会員の為の会報であります
各クラスの連絡などに御遠慮
なく御利用下さつて結構です
尚若年層の進出をより期待し
て止みません。
又クラス雑誌を編集なされ
た際には一部を本会宛に御寄
贈下さるようお願い致します
最近会費の納入状況も逐次
高まり悲願的であつた本会の
運営も曙光のきざしが見えて
参りました。一層相互の力を
結集して母校の發展と本会の
偉大なる理想を計画しようで
まわります。

徳島支部便り
宇根山哲夫 (糸三)
徳島支部は十七人ばかりの小
世帯ながら折に於ては電話
一本で会合し友情を温めてい

山形支部便り
小野 昭夫 (糸三)

に上田同窓の優秀性をみとめ
られて居ることは喜ばしいか
ぎり。石立輝久君(糸一)は
長尾産業K、Kの工務課長と
して重きをなし、徳島綿業K
K、には米内繁一君(糸三)
がいて、工場で重宝がられて
いる。筒井製糸K、Kには原
料課主任、仁尾幾朗君(糸三)
が温厚篤実な人柄と実直な仕
事振りで会社では、なくては
ならぬ人となつて居る。芦谷
哲郎君(糸三)が那は川田乾
繭場にいる。若い次長の下
うな仕事をしており、毎日忙
しくスターターで跳び廻つて
居る。以上のメンバーが徳島
で上田の名譽を担つて居る面
々である。

原稿の送附
本会報は年四回の発行予定
で演進しておりますからどし
どし御意見なり御消息なり本
会宛お寄せ下さい。申すまで
もなく全国の全卒業生三千余
名に漏れなく毎回送送してお
る会員の為の会報であります
各クラスの連絡などに御遠慮
なく御利用下さつて結構です
尚若年層の進出をより期待し
て止みません。
又クラス雑誌を編集なされ
た際には一部を本会宛に御寄
贈下さるようお願い致します
最近会費の納入状況も逐次
高まり悲願的であつた本会の
運営も曙光のきざしが見えて
参りました。一層相互の力を
結集して母校の發展と本会の
偉大なる理想を計画しようで
まわります。

山形支部便り
小野 昭夫 (糸三)

山形支部便り
小野 昭夫 (糸三)

隨想

信濃路四日の旅

静岡県 戸倉 八峰

「富士と浅間」——殊更に富士山を持つて行つて浅間山と競争する積りではないが、富士山のある静岡県住人の私が約二十年振りに信州入をして第一に接したのが懐しい曾遊の山、浅間の煙であつてみればこの二つを小「トビツタ」に並べた迄だ。

五月十七日、青葉の伊香保温泉の会合をよい機会に、一足伸ばして信濃入を思いついた十八日、榛名湖畔に立つて榛名富士を一目眺めて、高崎から一路「白樺号」で軽井沢へ着いた。その時車窓北の方浅間の黒煙が目に入つて、昔も今も不変素晴らしい浅間の山。本物の富士も榛名富士も到底叶わぬ活火山の浅間の雄姿、馬子の歌つた追分節、そのまゝの豪壮なる自然美、信濃人の尤も誇として今少し浅間山宣伝の力コブを入れて観光価値を高揚してはどうだろうか。

「静岡支部のニュース」——戦争で静岡の蚕糸は八割減産転落した。一事が万事で、凡て後退するもので同窓生もマハラ、蚕糸課は格下げされて特産課の内一係部となつて活動力極めて乏しき現状であつて、飯支部長も肩身広く母校へ報告する資料なきは汗顔の至り也。

「静海と別所」——約束通り倉沢大人と落合つて、上田から別所の倉沢宅で靴を脱ぐ。曾て橋本武光君が誤射した女アノマ倉沢令夫人を交へて五ヶ月物語に花が咲く。小生の同行者(〇兄)J氏は未知の落葉松、林檎の花、白樺の老樹等の説明を聴いて感心したのも暖国からの客人だと笑われる熱海は東京の奥座敷なら別所はその離れ屋敷い茶室の四畳半と云えよう。

如く袂付樹根、御身者が精に腰掛けて居るゝとのみ思ふ習慣が今もつて先入観のあるので、一寸バツが外れた感であつた。

「八才の小娘は四十八婆となつて再会」——学校当時世話厄介になつて過ぎたH家の母人、R未亡人へ途中から往訪のハガキを出して訪ねたら既に昨春仙界された事、ハガキもあの世迄は届き兼ねた訳で、一年の遠いで袖振り合ひし今生の縁の御人との対面は出来ずその息女M女を五里離れた塩川村に訪ねた。旅の道草もこうなる。一種の酔興と云うべきか。お年を取られたと云えばそちらさんもと言い返される。算ればこちらは六〇才そちらは四十八才年の年と謂う、成る程馬鹿を重ねる事丈は同率で公平であつた。

余散歌刻辭して川中島古戦場を突走つてバスで長野の善光寺参詣、一年も永生きをオラガ仏様に念願した。一巡して建築の偉大さに再驚した。案内の主柱の一本が少々斜かつて居るのは二百余年の往年の大地震の際、この一本丈被害があつて他には更に故障なかつた事を初めて承つて昔の大工の技術の精細に感服する次第であつた。矢張り善光寺は日本的の真在、浅間山と共に信州人の誇る伝説である。

「栗林ハツ子の偉業」——廿日の午後倉沢兄の勸業で、坂城駅の南条村栗林堤堤を見訪れHSD製作所を参観して專業の健全な発展に驚く、七

「小海嶺で甲州へ抜ける」——信州を去つて小諸から小海嶺を下淵沢のハケ岳高原を南下す。馬鹿に乗客が混んだと思つて尋ねた所途中の何とか駅にオヤシ神様があつて一年一回の大祭で近隣の蚕男蚕女の参詣人でこの盛況と聞いてさすがに蚕国年収五百万円以上の産額も合点が行く、生れの曇天でハケ岳の雄姿は見られないが広宏の原野スロープは雄かに猫の顔程の高原の多い静岡人にはニツタリした気分を与える。只尻尾りがないので空腹をかゝえて甲府迄待つのは辛い。

「一車中偶然出つた梅谷三博士」——小諸出の汽車中で旧知の梅谷三博士と出會ひ三十五年間の昔話を交す。学識博智と申すか、知らぬ間に農、理、二学位の保持者、欲しいが人に一つ預けてやればよい様に思うが、それも出来さるべく、御本人も案外荷厄介でもない様だ。中野の蚕糸試験場在勤、益々研究に邁進されん事を。

「甲州路の一夜」——小淵沢に出て甲斐の国の風が肌に爽やかに当る、南に裏富士が高く聳えて目に入つたが矢つ張りに富士は表不二、田子の浦にうち出でて見る富士が本物の富士(不展)と柿本人麿が言つた通りだ。

突然千曲會報の御惠送を頂き懐しの念禁じ難く、再三繰返し拝読いたしました。私は大正十五年二十五才で母と共に赴任し足掛七年官舎に御厄介になりました。

上田で結婚し長男二女をもうけ、青春の時期を愉快に過させてもらつた上田は私に第二の故郷であります。四国の工藤見吉兄の御尽力で発行される「一七會誌」を通し上田蚕糸卒業生の一部動靜は承つておりますが此の度は全貌を窺ひ得て欣喜極く能わず一筆啓上致します。

温容慈父の如き針塚先生、井上先生の登山姿、阿形先生の特徴ある歩き振り、六ヶ所の顔を説いた大淵先生、会津魂を説く和田劍道部長先生、テニス運動會に活躍される佐藤利博士、黙々として研究に余念なき佐藤春博士、朝早く千曲川に出かける古谷先生、學術會議員として活躍される蒲生博士、ニコニコ時々大きな笑いを発する林教授、テニスの倉沢教授、團場主任若崎七段、修巳寮の小林老書記東寮の老夫婦等々走馬燈の様に思ひ出される、何しろ十銭持つて妻と共に馬場町の夜店に行

上田の思い出

旧劍道師範 小 沢 丘

を終つて東京經由帰宅した。筆を擱くに際して倉沢夫妻の手厚い御接待を多謝する次第也。(静岡支会長 蚕二)

けば茄子が背負いきれぬ程きた時代です、昭和七年父が東京に道場を建てての来いといふので退職して東京市立二中(現都立上野高校)に行つたのでした。上野の森に七年居り昭和十六年興亜館に入り道具をかついで朝鮮、満洲、支那、蒙疆を廻りました後職制改正で大東亞省鍊成官という名をもらひ相変らず大陸廻りをして居りましたが戦事末期に召集を受け八丈島に渡り中隊長として警備、敗戦で自然退官、止むなく郷里埼玉へ歸つて農業を始めました。昭和二十二年村長に公選され、なれない末端の仕事が六年半やりました、警察に剣道が正科として課せられるようになつたので昨年八月一日国警本部劍道主任指導官になり警察大学教授を兼ねて警察劍道の為に微力を注いでおります。

郷里の近くに片倉製糸武州製糸所長をして居る井上保雄氏が居られます、御厄介になつています、松村季英博士も私が村長の時わづら、岩瀬村へ御出を願ひ御講演を願ひました。松村博士などの大家が田舎の村へ来てくれるものと県蚕糸界の人が高をくつ

ていたところ、来て下さったので私は大いに面目を施しました。是れも上田蚕糸のお蔭と感謝いたして居ります。私の村の唯一人、上田出身の前村長、野本治兵衛氏(養蚕科卒)は私が村長就任と同時に高血圧で倒れ九九年程寝ておりましたがついに昨年永眠されました。

懐しきの余り身辺の雑事と思ひ出すまゝを申し上げました、どうぞ私も千曲会の一員

舊友の諸君へ

クラス雑誌 ほしんの復刊に当つて

山本友之丞

鈴木雄七君が職場で急逝したと聞いたとき一番先に浮んだ考へはご遺族が幾人であつたかということであり又総領息子は何才になつて居るかといふことだつた。それが子供さん五人で、長男が高校生末つ子はまだ頭はない幼年者だと報され心痛む思いが深まつた。主人が丈夫で活躍してきてさへも、子弟の養育には相当の覚悟が要るときに唯一の働手の主人を一瞬の中に奪われた貞子未亡人のご心中は察するに余りがある。第一、鈴木君も感々これは大変だと自覚したときは全くやり切れない感情に包まれたであろうと同情の言葉もない。若しその瞬間偶然にも吾々級友の中の誰かがその場に行き合せていたものをとどまらぬに友情と風であるかと感謝と期待とを

として御指導下さる様お願い致します。御上京の節はお立ち寄り下さい。會員各位の御健康を祈ります

現住所 東京都中野区宮園通五の三三
勤務場所 中野区開田二警察大学
千代田区豊ヶ岡一の一
警務課 警本校勤務
(附記) 金二〇〇円を頂きましてこととを感謝致します。昭和二十九年年度に繰入れます。
(編集部)

し、そして安堵をしたことかとそんな假定を想像してみた然し僕達は信頼に備する力の持主ばかりではない。否寧ろ他を頼る余裕のある者はないかも知れない、けれど友の悲運には涙し乍ら熱い声援を送る友情は失われていないことを信じたい。自分の生活が苦しければ苦しい程逆境に陥つた級友のご家族の心境を想い乍らそのご多幸をお祈りしたい、それが亡き人の霊を慰めることだとも想つた。そんな氣持からまず、鈴木君の急逝を全級友に連絡したものだつた、ところがその通知は思い掛けない深刻な事実に突き当たってしまった、というのはいが山本誠君の死亡通知となつて返されて来たのであつた昭和三年三月十五日に校門を出た二十九の新星は、その後「ほしん」によつて固く結ば

れて一人の落伍者もなく幾星霜かを閲し得たものだ。これは当時世界の五大強國の一つとして極東に君臨した大日本帝國の國力が國民生活を支えていたという客観的情勢は否定し得ないとしても、更に大きな原因は不世出の好漢、眞ちやん小林眞一君がその身を奮まらずに貴い努力を傾注して「ほしん」を編集し會員の保育に任じたからに外ならなかつた。兎に角その恵まれた環境の下で朝鮮から台湾にまで散らばつていてもお互いの動静は明らかであつた。少くとも年一回の「ほしん」をみると二十九個の星々が氣味よく、遊んでいる様子が一目瞭然であつた。その「ほしん」の十五會員達が會員の死を何年間も知らないでいたのだから事は重大だと考へたのである。樋口先生が昭和三年の春慶遠新卒業生に残されたお手紙の中に「知識は一晩で得られる、金は即刻手に入ることが出来る、而して健康と友情は永久不滅の努力に依らざれば得ることはできぬ」と論されたお言葉がある(「ほしん」創刊号)。これは悲しくも樋口先生から僕達への遺言となつてしまつたのだ、僕はこの三十三才で逝かれた樋口先生のお言葉を思い返して全く一言もないと思つた。俺達の感受性が全く枯渇し切らない今の裡に、何んとかしなれば遂にはお互い級友を失つてしまふことになるかも知れないぞ、と考へた。而君追悼のための「ほしん」再刊掲唱の意義は、若き日を懐しむ

ソチメンタルからのみでなく既に人生の斜陽の行程にあるお互いに、友情のきずなを確りと握り合ひ、お互い励まし合ひ乍ら陽の長い初夏の午後秋の終りを楽しみながら田圃をする農家の如く、希望に充ちた生活を推進したいと思つたからに外ならなかつた。「ほしん」の原稿の集りは全「ほしん」の如く遅々とした感があり、発行は日々々々延びてしまつた。然し僕は素々遠慮氣兼ねの要らないのが友達付合の特長である。その裡には全會員揃うときがあるうとそれを待つことにした。この発行が遅れたことがよいことを拾つた結果にもなつた、それは当初鈴木君の急逝、山本誠君の物故等の衝激をうけて始めた今回の編集は兎角感傷的に偏する嫌いはないでもなかつた。これが長い間にいつとはなしに反省されて、両君以外宮本、遠藤両君を含めた全物故級友の霊を慰め得られるものに改められて来たことである。但し途中から改変の加えられたものであるだけに宮本遠藤の両君に対しては失礼の点が多々あると思う。この点は全く申訳ないがアノ通りのソツ者だつた僕の氣性が未だに改まらずに僕ののだと寛容下し置かれるれば幸甚これに過ぎるはない。又小林眞一君については既に追悼録が出されてある。又中村岩人君のは「ほしん」第七号の小山君の記事にもある如く十四回よりも多くの交渉があり同君生前のお考えもあられたので、「ほしん」會員は中村君に先

輩の礼を執ることになつてゐる。そんなわけでの編集の中に「両君のことを素略にしたことをお詫び申し上げ御諒承願いたい。「ほしん」は御覽のとおりのもとなつてお手許にお届け申上げた。會員諸君がこの「ほしん」の出来栄を手にされたときにまず宮本豊彦、遠藤正寿、山本誠及び鈴木雄七の諸君の御冥福を念じられたことを確信し、編者としてはそれが一番の欣びであることを付け加えた。

追記 本文は「ほしん」に編集後記として山本氏の執筆されたものである。千曲会の在り方が種々論議される折から、千曲会を構成する各クラスの旧友間の友情のつながりを客観的になごめることは意義深いと思われ。そこで筆者山本氏の御了解を得て本紙に登載することにした。(編集部)

お願ひ

昭和三十九年度分会費未納の方は金二〇〇円を各支部会又は左記振替口座御利用の上至急納入して下さい。

振替口座 長野六二四三番
又は振替口座 東京四三三四一番

宛名 上田局区内信大織維学部
内社団法人 千曲会

（十頁最下段より続く）

が呆然としておられる。夕方……五時、全職員方に護られて官舎に、そしてその後……六月十五日、お父様ゆかりの講堂に安置されたみ霊は「故鈴木雄七先生」の用旗や花輪に埋められ、全校の生徒、教職員及び父兄の方々の贈として声なき数千の心に護られて告別の式が校葬に準じて執り行われました。祭壇の前に立つた私、身に余る盛儀に亡き夫の余栄を飾つて頂きましてたゞ、感激するのみ、この上はどうぞ安らかにご冥福を深く、御祈り申上げるともに、どうぞお父様、この五人の子供の将来をお護り下さいと祈らずにはおられませんが……ご遺骨を五十日間家に置き、七月三十七才の長男、寛の胸にしっかりと抱かれて、ご郷里愛知に向い……た。どんなにかお懐しいことであるうご生家に声なき帰郷翌日学友、親戚の人々にお見送りを受け、思いがけない盛大な埋骨式をして頂きましたこうして夫、鈴木雄七は四十七才を一期として三河の國の山深き津具の里の金竜山中でお父様やお母様の側から永遠の眠りにつきました。

(写真、鈴木雄七氏、筆者は同末亡人)

千曲会と母校に望む

北條 舒正

千曲会報に初めてペンを取
る機会を与えられたので日頃
同志会や母校について感じて
いる事を申述べてその任を果
したいと思つて居ます。これは化
学を専攻している一卒業生と
しての私見であり種々異論も
あると存じますので予め御了
承願いたします。全国的に有名な
千曲会も戦時中の連絡途絶
後の混乱等により危機に立つ
ている、これを回復するには
会の民主的運営同窓生在学
への呼掛程度では到底期待出
来ないのでないだろうか。

旧制大学では特別な組織をも
つた同窓会はなく必要の都度
連絡するといふ程度が多いが
だが、母校との間には常に血
が通つていて社会で活躍する
ためのバックボーンをなして
いる。これは母校が活動する
ための根拠地であり、これを
有する事により大きい精神的
な強味と誇りを持つため絶えず
連絡をとらんとして積極的に
努力している。翻つて吾校に
於いては卒業以来十数年間も
訪ねたこともない人も多く、
その必要も感じないのではな
いか、又卒業生である事を他
の大学専門学校の人々に対
して誇りに思つて居る者が果
して何人いるだろうか、今日
大会社の幹部として活躍して
いる古い卒業生も可成りいる
が果してあとに続くべき後輩
がどの位あるだろうか、又入
学試験も年ごとに志願者数、

質は低下し、東京、京都に比
べても格段の差が出来た事を
認めざるを得ない。これらの
よつて来る所を考へるに単に
宣伝や表面的な改造では解決
出来ない本質的な問題が横た
わつて居ると思ふ。

私は冷静にその原因を検討
しそれに対する方針をたて、
思い切つた改革を敢行しなけ
れば一地方大学として取残さ
れるのみならず卒業生からも
無視され存在価値すら危くな
る時代が来るのを恐れるもの
である、然らば如何にすべき
か、これは簡単に決める事が
出来ない問題であるが私見を
述べさせて頂く。

第一に学校の内容の全面的
改善である。これは今迄にも
度々云われて来た事であるが
古い学校であるだけに非常に
困難な問題である、現在の状
況を見ると大学に昇格して専
門学校時代のシステムがその
まゝ引継がれ、吾國の職維工
業が大きく変動して来たのに
その指導者を養成する機関が
逆に時代に取り残されて居る
感で、心ある卒業生は鋭い
批判を行つて居る。大学が時
代に左右される必要はないが
卒業生が社会に出て充分活躍
出来る様に遠い将来を思ひ通
つて教育すべきではないか、
その点東京や京都の行き方も
単に機軸のみでなく内容を考
慮すべきである。又四科の中
三科迄が工学士を社会に送り

出しているのに繊維学部が大
学の農科系のグループに属し
ているのは不可解である。第
二に卒業生の知識のバックボ
ーンとして研究陣が充実して
いる必要がある、即ち技術面
その他で必要の際には母校に
船れば何とかならぬが、
と少なくともその糸口を見出
すことが出来るという感じを
抱く程度になつておくべきで
ある、地理的に不便でも恥を
かえずに質問出来るので別に
気軽に帰れるのではないかと
論一定の人員で凡ゆる事を研
究する事は不可能だが、各人
が出来れば深く新しい知識
を身につける様にしなければ
ならぬ。この際必要な研究費の
不足は何処の大学にも共通して
居り少い費用を如何に有効に
使用するかと問題で要は人と
その心掛けではないだろうか
今年の一月八日文獻調査で戦
災を受けた或る大学を訪ねて
書館では超満員の研究員と学
生で七時すぎ迄目的を達し得
ず、実験をやつて居る卒論学
生の激しい気魄と研究設備の
立派さと教授連のボロ机と椅
子のコントラストに感嘆して
帰つて来た。

一ヶ月の冬休をのんびり楽し
んで居る上田の学生を想ひ出
すと四年間この様な環境で訓
練された人々と社会で競うべ
き同窓生の将来に云い知れな
い焦慮を感じざるを得なかつ
た。他の大学や研究所を訪ね
て帰る度に上田ももつと
活気がもたせればと決心し
がのんびりした雰囲気次第
にゆるんでくるのを覚える。

始めた雑誌も五年になるが
未だ二五回にすぎずやせせる
のに一苦勞である。誰後始め
た所から二〇〇回の記念雑誌
の案内状を受取つた時には
全く淋しい気がした。

新日大学の区別が一応なく
なつた今日旧制や都会の大学
には函が立たぬとあきらめて
は永久に母校の栄ある見込が
ない。山田泰専の全盛時代を担
当して来た先生方は年老いら
れたが研究の第一線やその手
足となつて活躍出来る方々も
多くは卒業生である、老先生
や千曲会員諸氏の暖かい援助と
声援を期待すると共に研究費
の不足や不平満々耐えしのび
同窓生諸氏が社会で大手を振
り活躍出来る様な充実した
誇らしき母校を建設すべく全
力を尽そうではありませんか
(本学部助教 化)

チェインリアクション

清水邦達

最近、特に私たちに目につ
くのは色とりどりのポリ塩化
ビニル製のレインコート、チ
ェイン靴下、サランの婦人用
バッグ或は旅行用ボストン等
合成高分子物より出来た生活
品の著しい普及です。

この様な高分子物、ポリマー
ができる過程は委しく究明さ
れて居ますし、そしてこの生
成反応は二種に大別され、そ
の二に連鎖重合反応 Chain
Reaction Polymerization
があることは、もう良く知ら
れて居ます。

葉について、どの分野で初め
て使われたか私には判るよし
もありませんが、新聞等には
よく見受られます。例えばデ
フレ現象の深刻化を金融引締
めの影響は先ず閑居筋或いは
小売面に現われ消費財生産部
門に不況をまきおこし、中小
企業が相繼いで整理に入り之
は連鎖反的に生産財生産部
門の大企業に波及していき
云々、という様に記していま
す。

高分子重合についての連鎖
反応は極めて複雑多岐な意味
をもつようですが、之の言葉
のもつ単純な語感の色々な方
面の現象をのべるに使われ興
味があります。

マスコミユニケーションが
縦横に発達している現在の社
会では連鎖反応はますます威
力を發揮しそうです。伝達機
構の多岐な程、いわば反応促
進剤、触媒濃度が密な程人々
の衣食住精神活動に至る迄連
鎖反応の現象が支配的になり
ます。オールドリー型、ヅカ型
のヘアスタイルから、映画
鑑賞読書傾向の類まで、
昨年度、卒業に際して、で
ました「常陸」に次の様な意
味が記されてあつたことを記
憶します。「学業の終りに臨
み、初めて学問の始めを知
る」之は恐らく卒業生の誰も
がその胸中にいだいた感慨で
ありましようし、私も記され
た言葉をかみしめた一人であ
りました。

学生時代は、私たちが個々に
ついて云えば連鎖重合反応に
おける活性期、反応開始期と
も言えるのではないでしやう
か。

専攻科に入學した私達には
活性化の状態を一段と高エネ
ルギー状態にもち来すもろも
ろの条件が与えられて居ます
更に私達が一人一人充分の意
欲に燃えていれば、言わば二
重結合をもつたモノマー(單
量体)でありうる時は更に連
鎖反応によつて成長しポリマ
ーになりうることも可能な状
態におかれて居ます。現在の
生活は、自画像に充分な肉づ
けと美しい色彩を与える鋭い
ナイフとカラーペイントが豊
富に用意されたアトリエでの
生活にたとえられるかも知れ
ません。而し自画像が作品と
なりうるには、筆をとる人自
身の才能と努力如何によるこ
と明かです。

社会に直接出て独立した多
くの友にも、これは共通した
事柄であるにしても、与えら
れた条件は、極めて良好であ
ることです。この様な反応開
始期から成長期をへて如何開
るポリマーが出来るか之は興
味ある問題でもありましよう
戦に敗れ九九年にならんと
している日本の姿は、未だ成
長期を迎えたと思われません
新しく総合大学として発足し
た私達の母校も之を反映して
居ます。信州大学の現在迄の
状態は言わば重合の反応開始
期と見てよいではないでしや
うか。

漸く活性期を経て、今後如
何にして連鎖反応を進展させ
るべきか。各学部は云わばモ
ノマーであり而もその種類は
同一ではなさそうです。各学
部の融合と統一は共重合反応

(Copolymerization)の観
が有ります。活性化から連鎖
反応への高エネルギーが必要
でしょう。促進剤。触媒も
時には大きい役割を果します
不断の努力を充分高重合度
のポリマーを創ることに拮わね
ばならぬことが痛感されるで
はありませんか。ひるがえつ
て、私達の学部は、どうして
ようか。大きい足跡を残し、
大学として発展すべく歩み出
した時は恰も高分子科学の目
ざましい進出の時であつたわ
けです。このことは、やはり
学部について言いますと、現
在漸く成長期に入つたと申さ
ねばなりません。然し心強い

追悼

畏友早川直瀨君の面影

佐藤 利一

畏友北海道学芸大学教授農
学博士早川直瀨君は肝臓癌の
ため可憐な石列無く本年五月
九日遂に長逝された。享年教
え年で七十才即ち古稀の齡に
達して居るから年齢の上では
余り不足は云えぬが発病直前
迄別に宿痾はなく極めて健康
で今後更に十年も十五年も社
会的に充分働ける氣力と体
力の持主であつたから其の
死は甚だ惜まれ真に月に叢雲
花に風の感が深い。
早川君は群馬県立前橋中学
校を出て暫く小学校の代用教
員の職を勤めたこともあるが
夙に青雲の志を抱き憧れの学
風を慕い遠く彼を負うて札幌

ことに連鎖反応は一つ一つ進
行して行きます。
何れの場合についても連鎖
反応は高いエネルギー状態を
必要とします。私達は高重合
度の優れたポリマーを創るの
に、あせらず、一歩一歩進み
たいものです。
カオザースがナイロンを世
に出す迄に費した年月は決して
短いものでなかつたではあ
りませんか。
終りに会報編集の方からの
御注文の専攻科たよりのよう
なものとの趣旨から外れたこ
とをお詫します。(化、専攻
科生)

へ遊学し明治四十五年七月に
東北帝國大学農科大學農学科
を優秀な成績で卒業し同年九
月に上田蚕糸専門学校講師と
して赴任した。やがて間もな
く教授となり昭和十年十二月
迄二十五年間奉職したが其の
間蚕糸業の労働問題を研究し
て農学博士の学位を獲得した
大正六年から八年迄の間に米
英伊伊等に滿二年間留學した
昭和三年から四年間は教務課
長の要職に在つて学校運営の
上に縦横の手腕を振つた。又
當時は各地から専門の蚕業経
済の講演の依頼があつて一時
人気者でもあつた。

同君の本校退職は前橋市の
一大製糸会社の群馬社の社長
に就任するためであつて其の
後は製業界で大に雄飛活躍し
たのである。然し社長在職は
僅に数年に過ぎず再び新しい
希望を抱いて上京し時勢を遠
顧して空地利用会社の設立を
企て同君の非凡の努力によつ
て会社の新設に成功した然る
に同君はこれにも余りこだわ
らず三度転身して海軍省の委
嘱の下に毛皮用動物マートリ
ヤの増産に尽力し是亦相当の
成果を挙げることが出来たの
であるが今次の大戦の終結と
共に此の仕事は自然に消滅し
て了つた。飽迄活動性の旺盛
な同君としては此の鬱安閑と
して徒食する筈はなく今度は
農業関係図書文庫の出版を志
し自らも執筆して活動中、偶
々米進駐軍の招聘に応じ農業
政策関係の顧問に就任し得意
の英語の力を利用して克く其
の重責を全うし得たのである
一昨年の我國の独立に伴い進
駐軍の顧問も自ら解消するに
到つたがそれと殆ど同時に札
幌に在る北海道学芸大学の教
授に任用されて再び教壇に返
映し毎年五月から十月迄の半
年は札幌で教壇に立ち十一月
から翌年三月迄の半年は東京
で暮らすことになり之を昨年と
今年と二カ年繰返したわけ
であつた。たゞは余りに短命
であつた。

以上如く早川君の一生を
顧みれば実に千変万化とも云
うべく多種多様な生活を繰り
広げたものであるが何時も止
むことなく活動を続け人一倍
の努力を傾注して居るので往
く所ならざるはなき成果を
収めて居る。頭腦明敏で其の
理解力と判断力とは正に抜群
で其の裁決は何事にも迅速且
つ正確であつた。日常人と対
話する際には話の筋道を半
分位聴くか聴かぬ中に其話の
結論を讀んで了う程度のも
であつた。而も先見の明があ
つたために事を処するに果敢
であり決断的であり独走的で
あり尚批判的であつた。ゆゑに
往々人の誤解を招くこと等も
あつた。折角同君の敏腕によつ
てなされた仕事が必ずしも其
のすべてが世の好評を博する
とは限らない場面もあつた。
同君は非常な人格者で常に
正論を口にし間違つた事は断
じてしなかつた。人には極めて
親切で人情味がたつぷりで
就職の斡旋や結婚の仲介等に
は到底人の及ばぬ心遣と巧妙
さがあつた。
同君の最後の二年間の單身
赴任の教壇生活には或は無理
はなかつたが、発病は昨
二十八年八月頃で最初は単
なる黄疸の形でやつて来た当初
医師はウイルス性の悪質な
黄疸と診断し本人も素より之
を信じたのであるが別に苦痛
もなかつたので毎日教鞭を採
つて居つたばかりでなく或時
は道内視察の旅行に出掛けた
り又劇務的に大量の学生の卒
業論文を校正したりして居つ
たが身体は漸次衰弱の度を増
し遂に汽車旅行にも堪えかね
る状態に昇進し十一月急遽飛
行機で帰京したのである。次
いで十二月に慶応大学の附
属の大学病院に入院し同二十
三日に手術すべく局所を切開

して始めて肝臓癌であること
が確認され手術せずに傷口を
縫合したのである。其の後の
数日は経過が最も不良で命且
ちに迫るの重態に陥つた。僕
は同三十日に同君を病床に昇
つたが意識は明瞭でも身体
の衰弱が甚だしく毎日輸血して
漸く余命をつないでいる有様
であつた。生別死別を兼ねる
のかと悲しく別れたが其の後
不思議にも絶望だと云う医師
の予言は見事に覆えり漸次快
方へ向い奇蹟的にも本年二月
二十日に退院し得る迄回復し
た。歩行も可能となり回復の
一途を辿つて体力も増進を続
けたかに見えたのは矢張り一
時的の小康状態で結局は死病
に終つたのは残念である。斯
く一時的にもせよ或程度迄回
復したのは治療法の万全にも
よるが病人の精神力による
方が大であつたかも知れぬ。
肝臓癌であることは最後迄本
人に秘し且つ本人も氣附かな
かつた。必す再発し得るも
のと信じて居つたらしい。入
院中可なり重態であつた時で
も学生の卒業論文を校正した
り読書したりして居つた。同
君の責任感と氣力とは只々
敬服の外はない。其の死は全
く殉職に値するものと確信す
る。同君は信仰方面でも一度転
向して居る。学生時代から中
年期迄は熱心なクリスチャン
であつたが中途仏教へ転向し
依し葬儀も勿論仏式で営まれ
遺骨は前橋市神明町源英寺の
瀧酒の墓地に葬られて居る。
御影石の墓石には同君の戒名
中部支部宛お申込み下さい

昭和十四年亡くなられた梅子
夫人の戒名、全香院殿能仁春
莊妙諦尼上座がならべて刻ま
れて在る。亡き梅子夫人は稀
に見る賢夫人で早川君が全く
後顧の憂なく思ふ存分活動し
得たのは夫人の内助の功が大
きい、琴瑟相和し家庭圓滿で
一男二女を養はれたが今は
皆立派に成人して幸福な家庭
生活を営んでいる。早川君の
趣味は謠曲書画焼物等である
が何れも丁度程よい加減の趣
向で趣味に溺れる様なことは
全くなかつた。又愛酒家であ
つたがこれも酒に呑まれる様
なことは全然なかつた。
上述の如く同君は最も多彩
な生涯を送つた。ゆゑに其の迎
話は頗る多いが紙面の都合も
あるのでこれにて割愛するが同
君は非凡な努力家であり活動
家であつた。ゆゑに生存中に人
の二倍三倍否夫以上の仕事を
なし遂げた事は事実である。
要するに其の足跡は極めて偉
大なもので或は専門の学問の
上に、又教育界のために又実
業界のために多大の業績と指
針を残し其の功績は偉大な
ものがあると思ふ。
最後に謹んで我友の冥福を
祈り併せて御遺族の繁栄を祈
つて筆を擱く。(本学部教授)

日本製糸学会中部講演集Ⅶ
蚕の化学決定機構・福田宗一
硬化病はなぜ跡を絶たないか
自動練糸について：林 貞三
定価一三〇円(送料共)三六頁
希望者は上田市信大日蚕糸
中部支部宛お申込み下さい

